資料2-1　スロープ状配点　一般的な例

No	対象	評価対象項目（「施工状況」の「施工管理」）
1		「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工管理について指示事項が無い。
2		施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映したものとなっている。
3		現場条件の変化に対して、適切に対応している。
4		工事材料の品質に影響が無いよう保管している。
5		日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
6		日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
7		現場内の整理整頓を日常的に行っている。
8		指定材料の品質証明書及び写真等を整理している。
9		工事打合せ簿を、不足無く整理している。
10		建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。
11		工事全般において、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。
12		現場でのイメージアップに積極的に取り組んでいる。

No	対象	評価対象項目（「施工状況」の「施工管理」）
1	○	「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工管理について指示事項が無い。
2	○	施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映したものとなっている。
3		現場条件の変化に対して、適切に対応している。
4	○	工事材料の品質に影響が無いよう保管している。
5		日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
6		日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
7	×	現場内の整理整頓を日常的に行っている。
8	○	指定材料の品質証明書及び写真等を整理している。
9	○	工事打合せ簿を、不足無く整理している。
10		建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。
11		工事全般において、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。
12	×	現場でのイメージアップに積極的に取り組んでいる。

No	対象	評価対象項目（「施工状況」の「施工管理」）
1	×	「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工管理について指示事項が無い。
2	○	施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映したものとなっている。
3		現場条件の変化に対して、適切に対応している。
4	○	工事材料の品質に影響が無いよう保管している。
5		日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
6		日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
7		現場内の整理整頓を日常的に行っている。
8	○	指定材料の品質証明書及び写真等を整理している。
9	○	工事打合せ簿を、不足無く整理している。
10		建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。
11		工事全般において、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。
12		現場でのイメージアップに積極的に取り組んでいる。

No	対象	評価対象項目
1	○	「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工管理について指示事項が無い。
2	○	施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映したものとなっている。
3		現場条件の変化に対して、適切に対応している。
4	○	工事材料の品質に影響が無いよう保管している。
5		日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
6		日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。
7		現場内の整理整頓を日常的に行っている。
8	○	指定材料の品質証明書及び写真等を整理している。
9	○	工事打合せ簿を、不足無く整理している。
10		建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。
11		工事全般において、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。
12		現場でのイメージアップに積極的に取り組んでいる。

（1）　現行の計算方法

① 当該「評価対象項目」のうち，対象としない項目は削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価対象項目数を母数として計算した比率計算の値で評価する。
③ 評価値＝該当項目数÷評価対象項目数
④ なお，削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

判断基準	ランク	得点
評価値が90%以上	a	4
評価値が80%以上90%未満	b	2
評価値が80未満	c	0
改善指示を行った	d	−5
改善指示に従わなかった	e	−10

【ケース1】

評価者が，評価対象項目を7つ選択し，うち5項目が達成できていると判断した工事

			評価値	ランク	得点
該当項目数 / 評価対象項目数	=	5 / 7 =	71%	c	0

【ケース2】

評価者が，評価対象項目を5つ選択し，うち4項目が達成できていると判断した工事

			評価値	ランク	得点
該当項目数 / 評価対象項目数	=	4 / 5 =	80%	b	2

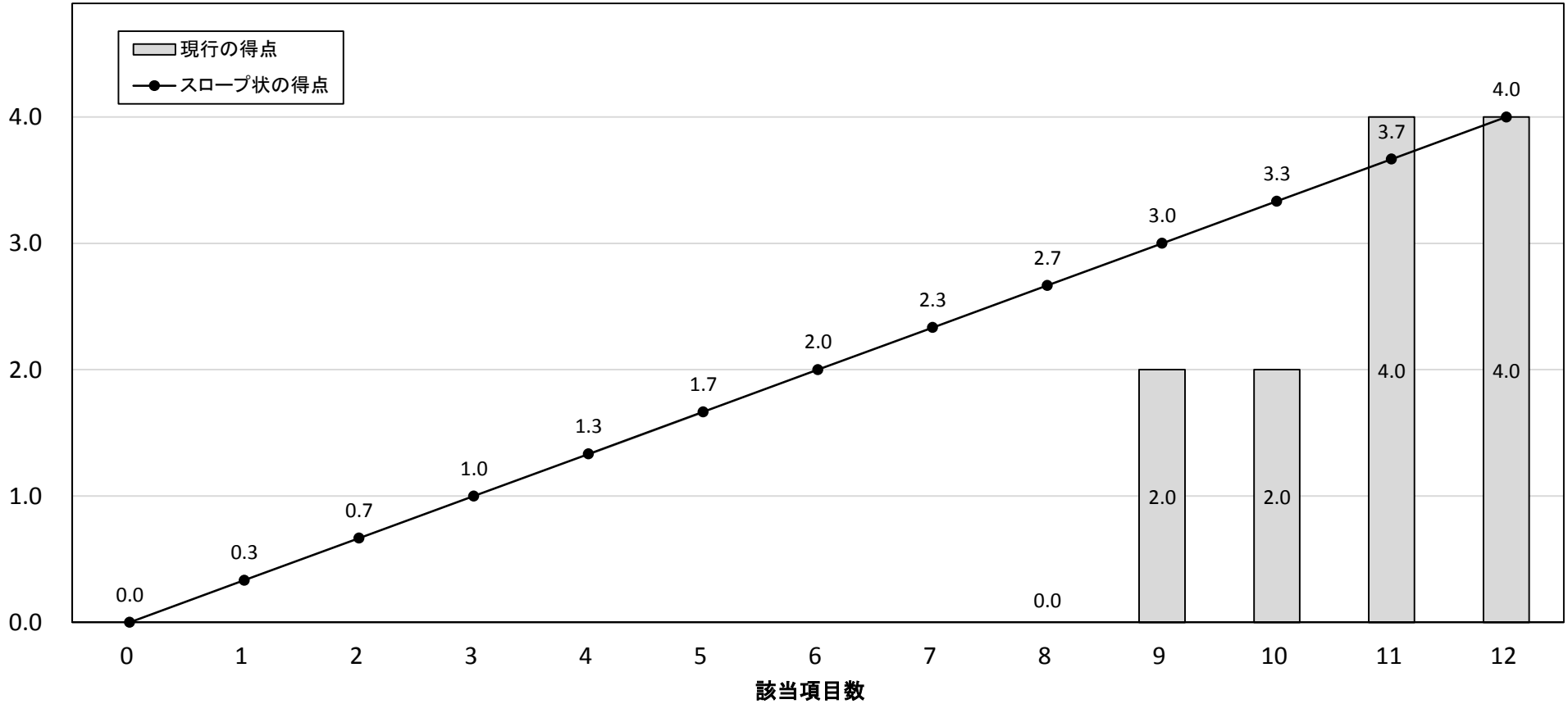
（2）　スロープ状配点による計算方法

評価者が，達成項目が5つあると判断した場合

			達成率	満点	得点
達成項目数 / 評価対象項目数	=	5 / 12 =	42%	×4点=	1.7

点数

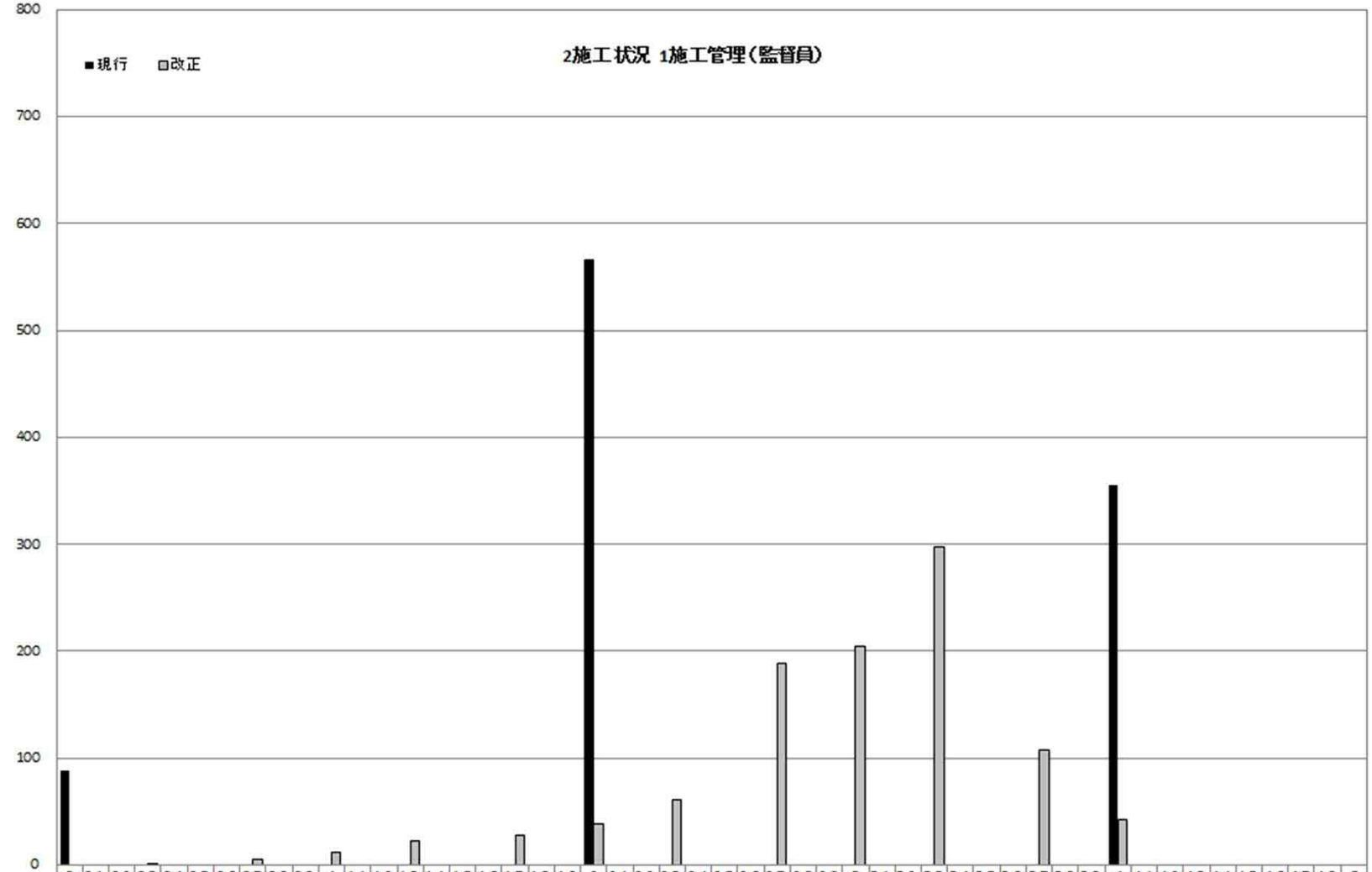
図2-1　スロープ状配点の模式図　監督員が評定する「施工状況」の「施工管理」の場合



該当項目数　n		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
評価値（n/12）	現行	0.0	0.1	0.2	0.3	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9	1.0
ランク	現行	c	c	c	c	c	c	c	c	c	b	b	a	a
現行の得点	現行	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	4.0	4.0
スロープ状の得点	改定	0.0	0.3	0.7	1.0	1.3	1.7	2.0	2.3	2.7	3.0	3.3	3.7	4.0

図2-2　現行の計算方法とスロープ状配点による計算方法の比較シミュレーション

平成28年度に完成した土木一式工事（災害復旧工事を含む1,011工事からd評価1件を除く）



	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	5
■現行	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	567	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	355	0	0	0	0	0	0	0	0	0
□改正	0	0	0	1	0	0	0	6	0	0	12	0	0	22	0	0	0	28	0	0	39	0	0	61	0	0	0	189	0	0	205	0	0	298	0	0	0	107	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0